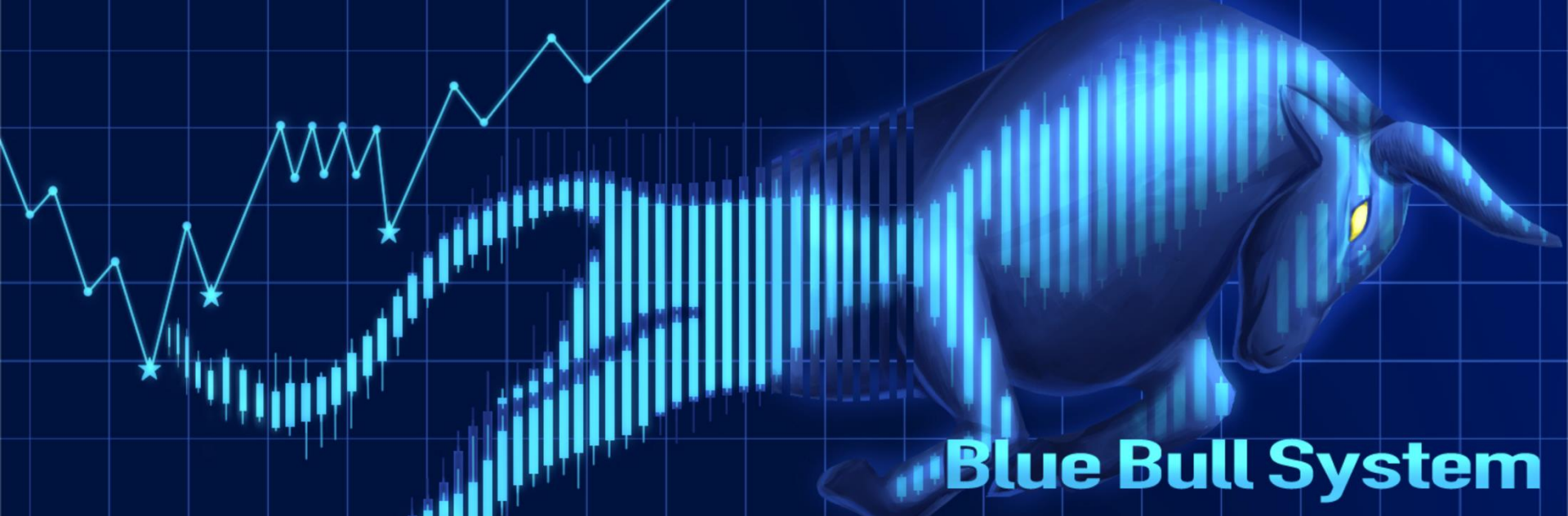




青牛式トレードバイブル 2.0

The Pursuit of Essential Meticulousness

□なぜトレーディングをするのか

○目的

人として成長し続けるために学ぶ。

その取り組みの研鑽から得られる多くの学びは、想像を絶するほど有意義である。

○日々の感謝

多くを望まず、自身が手の届く範囲の人を豊かに幸せにする。

ありふれた日常にこそ、本当の幸せがある。

物質的欲求を満たすことに本当の幸せは訪れない。

精神的な幸福を実現していくことで、人生はより豊かになる。

□自身の強み

私の強み・最大の特徴は、

「本質的な丁寧さ」である。

誰もが見るチャートを、誰もが実行できない緻密さで分析する。

そこに私の優位性が存在する。

それによって、厳密な根拠に基づく、
シンプルで洗練された美しいトレーディングを実現する。

□自身の強み

私は、いかなる時も絶対に諦めない。

必ず活路があると信じ、自らの手足を汚しながらもがき続けた結果、今日という日がある。

この世界に「成功」という1つのゴールに到達するための秘訣があるとすれば、それは間違いなく諦めずに進み続けることだろう。

そして失敗を恐れない心、失敗を糧として成長し続けるマインドが自身が気づかぬ間に不屈の肉体と精神を築き上げる。

□問題定義①

○トレーディングとは、

- ・チャートに描写されるものは、人の心理を視覚化したものであり、人が関係するということは、

『自然界における万物の法則が関係する又はその支配を受ける』と定義できる。

つまり、相場という宇宙は人間力を試される世界である。

- ・手法とは、意思決定のための判断材料である。

それは、自身の在り方の確からしさを証明するためのツールであり、それ以上でもそれ以下でもない。

この手法において最も重要なことは、「徹頭徹尾一貫していること」だ。

不確定要素に支配される相場の世界において、自身の一貫した軸を持つ者のみが相場に翻弄されることなく長期に渡って利益を享受することができる。

□問題定義②

- ・ トレーディングの結果とは、自身のステージレベルに見合ったものしか得ることはできない。
つまり、常に進化し適応し、人としてのステージレベルを向上させ続けることがトレーダーとして最も重要であり、その結果として利益を必然的に手にするのである。
- ・ トレーディングスキルの追究において、ある一定の領域に到達したのちは、いかに安定した精神状態において自身の手法を一貫して繰り返すことができるのか、ということが日常的な営みとなる。

つまり、柔軟に富み色彩豊かな裁量トレーダーであるにも関わらず、体現しようとしていることはシステムトレーダーのように機械的で無機質な一貫性という矛盾と向き合うのだ。

しかし、この矛盾する事実自体がトレーダーという在り方に風味豊かな趣を生み出す。

□技術の習得

○フォームトレーニング

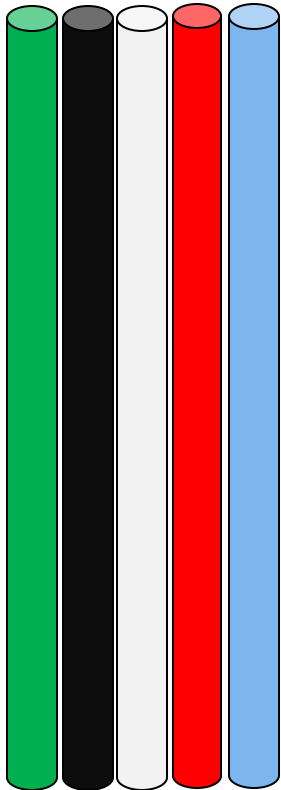
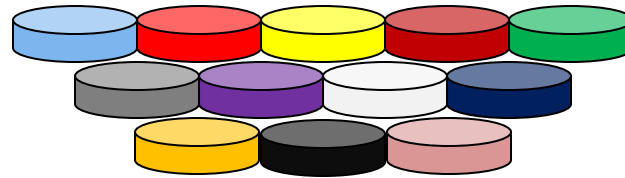
- ・パラメータを固定した反復練習によって、解釈の余地を残さない記憶を神経系に擦り込ませる。
- ・「どれだけやればいいのか？」それは自分にしか分からない。定量的な判断も1つだが、何よりも大切なことは**自分自身が積み上げた時間に対して、「これなら絶対に大丈夫」という確信を持ち相場に臨める状態を築くことである。**
- ・リアルトレードにおいても、反復学習したセットアップ以外は脳が反応しなくなり＝反復学習したセットアップにだけ脳が反応する状態となり、チャートをこねくり回して「トレード機会を最大化しようとする」認知機能を作用させない。
- ・マルチタイムフレーム分析によって緻密に相場状況を統合判断しているにも関わらず、環境認識が一瞬で完了する状態となる。
→採用したセットアップ以外で不要な行動を取らなくなる。

○トレードジャーナル

- ・徹底して言語化しチャートで起こっている事象を認識できるようにする。
- ・高精度な記録を積み重ねるだけでなく、何度も見返して視点を深掘りしていく営みが重要。
- ・蓄積した記録と向き合うことで、共通する傾向や事象に気づくことができる。
→自身の特徴やクセ、優位性の発見

□技術の習得

浅く広く：あれもこれもと様々な要素を取り込み、全てを深く理解できず技術とならない
パラメータ個々や相互作用に一喜一憂し一貫した軸が定まらない



狭く深く：採用するパラメータを絞り、
可変要素を少なくすることで軸が定まる

1つ1つのパラメータと向き合えるため技術が磨かれていく

TJも同様でまずは基準となる軸を定めることで、そこから派生するケーススタディとして有益なサンプルを蓄積していくことができる

大量のパラメータを採用し軸が定まらなければ、「何を集めているのかも分からずに大量のゴミを集めることになる」

厳選した個々のパラメータを深掘りしていくことが、
トレード学習において最も合理的な最短経路の遠回りとなる

□重要な概念

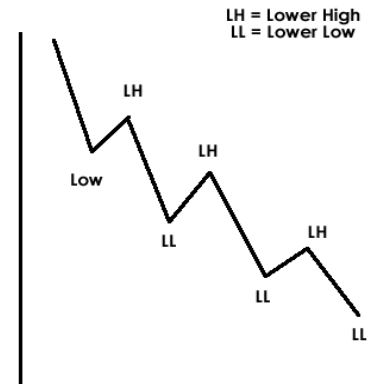
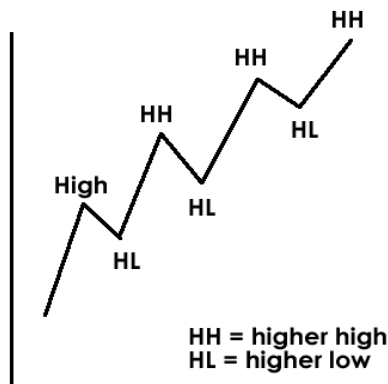
「値動きとは、
価格同士を線で結ぶことで具現化する波である。」

○なぜ波なのか

- ・ 自然界を構成する光、音、振動、エネルギーが波であることは自然の摂理である。
- ・ 生命の鼓動も波（心電図波形）である。
∴自然界に対し、ミクロ因子である人間の思惑・心理が形成する相場という宇宙においても、その連続的な繋がりを波として形容し認識するのは自然な考え方である。

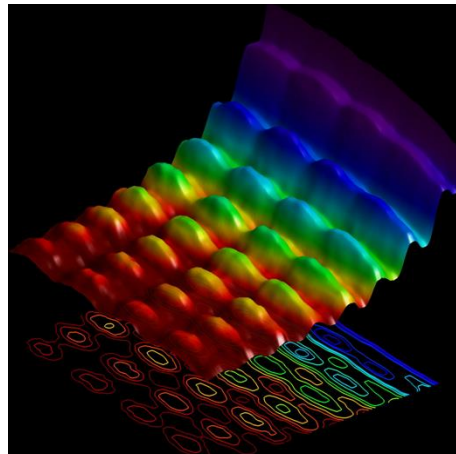
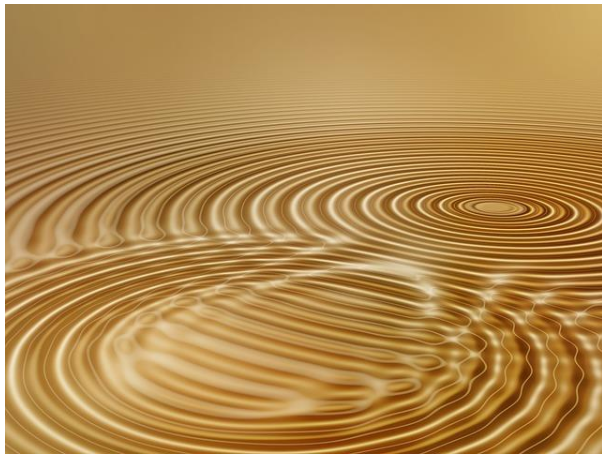
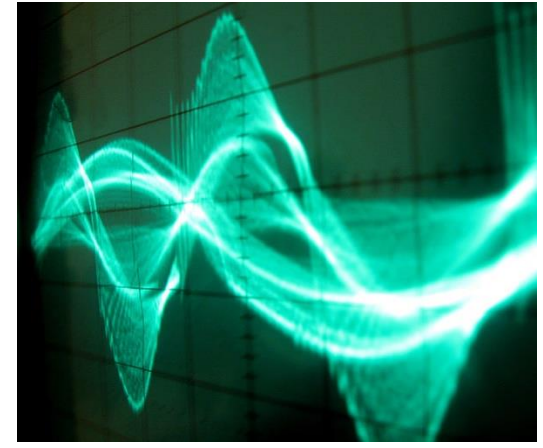
○どうやって波とするのか

- ・ 構造的波：相場という空間の「その時」のメインストリームとなる波のリズム。四季、潮の流れ、風の流れ
- ・ 形式的波：ダウ理論上、重要な高値と安値を結ぶ。



□重要な概念

この世界における様々な波



□手法のコンセプト

「マルチタイムフレームで緻密に分析統合し、
トレンドフォロー及びトレンド転換初動をパターン認識で捉える。」

○優れたトレード戦略

- 1.トレーダーの能力
 - 2.スキル
 - 3.チャンス
- 3つすべてが揃ったときにチャンスが生まれる

○主導時間足、ターゲットスイングの明確化

どの時間足のスイングを、どの時間足のトレンド（＝波）で形成しているのか。

→ トレンド＝主導モメンタム

例）H4:Up Trendの押し目をH1:Down Trendで形成

○重要な要素

1. スイング

波自体が自然界の摂理であり、最も優位な存在である。

2. 価格

相場において最も普遍的で絶対的なもの。解釈に余地を残さない。

基準となる価格での需給の見極めを丁寧に行う。

OHLCの中で「終値」＝合意形成された価格を最重要視する。

3. 時間

この世に存在する全てのものは、時間の支配の中にある。

□手法のコンセプト

「スキャルピングのストップ幅でスイング規模の波を捉える」

○理想的な適応セットアップ

MN or W1：陰線坊主の状態 → 結果ハンマー形成
D1：押し目買い等 H4：Rv H&S H1：Rv H&S

○構成要素

- ・丁寧で緻密なマルチタイムフレーム分析
- ・リスクを限定した資金管理
- ・セットアップに対するトータルコストを含めた立ち回り

○ピラミッティング

セットアップ自体の優位性を根拠にH1スケールのトレンドフォロー戦略
→ 押し目で積極的に増し玉

○保有時間の決定

トレンド主導なのかボラティリティ主導なのかを見極める

□波を把握する①

○波（スイング）を把握するツール

最重要概念

「波はトレンドでなければならない。」

トレンドとは、その場を支配する流れ、勢い、力の総称である。

→トレンド＝主導モメンタム

例）H4:Down Trendの戻りをH1:Up Trendで形成

→ H1:Up Trendが順行しそう＝H4:Lower-High確定の可能性が高い

→ H1:H&S Trend転換成立＝H4:新たな波の形成

※ミクロでは、M5スケールでのTrend転換、何らかのパターンを認識

1. 波形スケール

(1) 縦軸

前回スイング等と「価格の幅」を比較

(2) 横軸

前回スイング等と「値動きの時間」を比較

2. 波形リズム

(1) 構造的視点

秩序となっている波の本質的なリズムを捉える（感覚的）。

(2) 共通認識的視点

ダウ理論をベースとした高値・安値に着目し形式的なリズムを捉える。

3. 波形サイズ

場に秩序が存在する場合、その主導となっている一つの波の大きさを捉える。



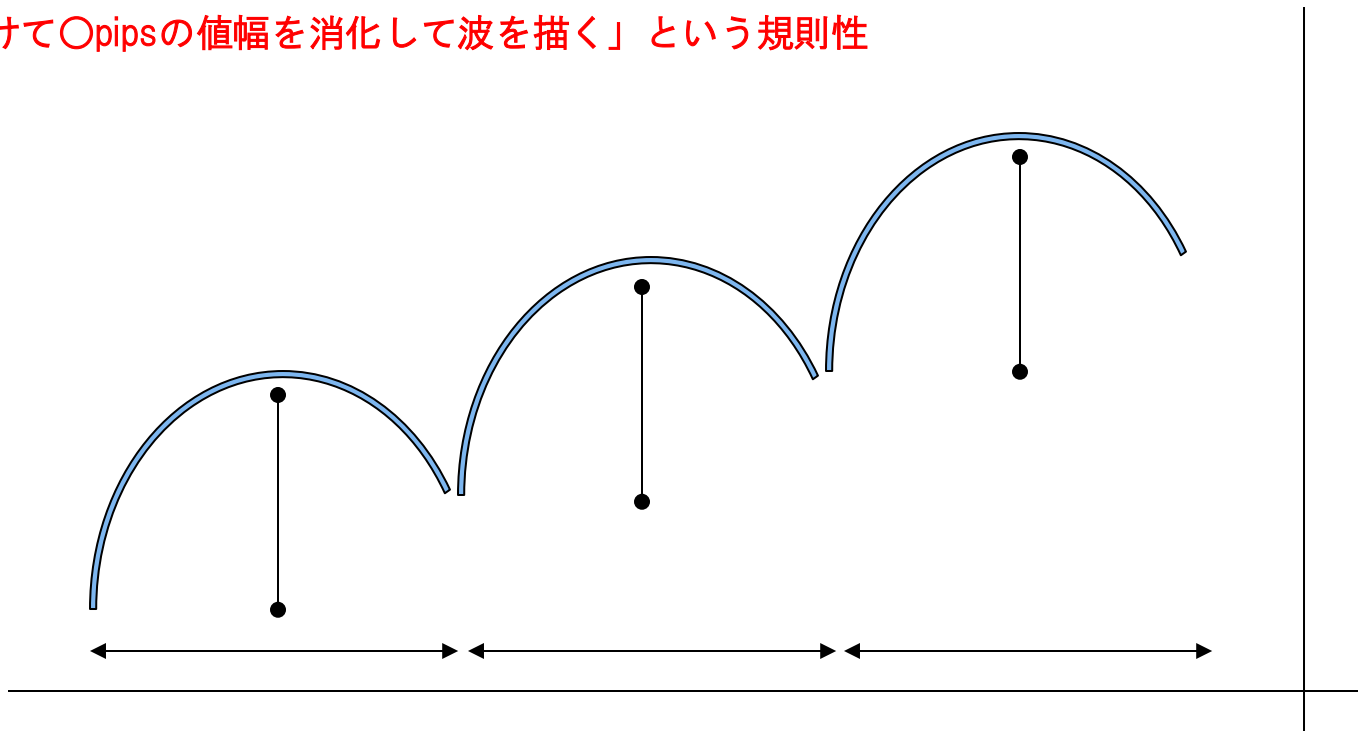
□波を把握する②

○トレンド＝相場の秩序

トレンド発生時、値動き自体に一定の規則性が生じる傾向がある

→ 波の優位性

「○日かけて○pipsの値幅を消化して波を描く」という規則性



□波を把握する③

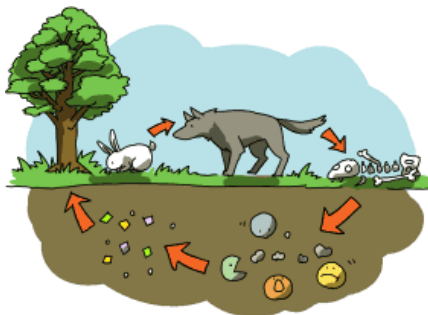
○波の模倣性を取り扱うにあたっての注意事項

価格、模倣しているスイングサイズ、スケール等は時間の経過とともに少しずつズレが生じる。
そして、基準は常に補正され、最新のものが模倣される。

その時の「旬」、「メインストリーム」は常にあるが、
必ずそれが移りゆくのが自然界の摂理



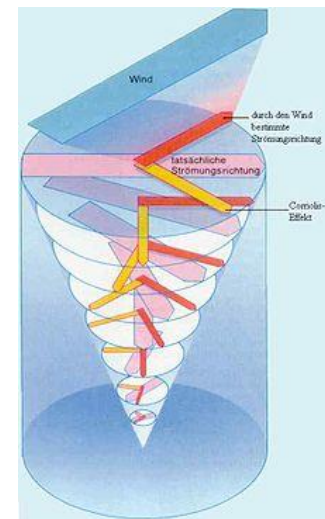
惑星の一生



自然界の食物連鎖



四季の移り変わり



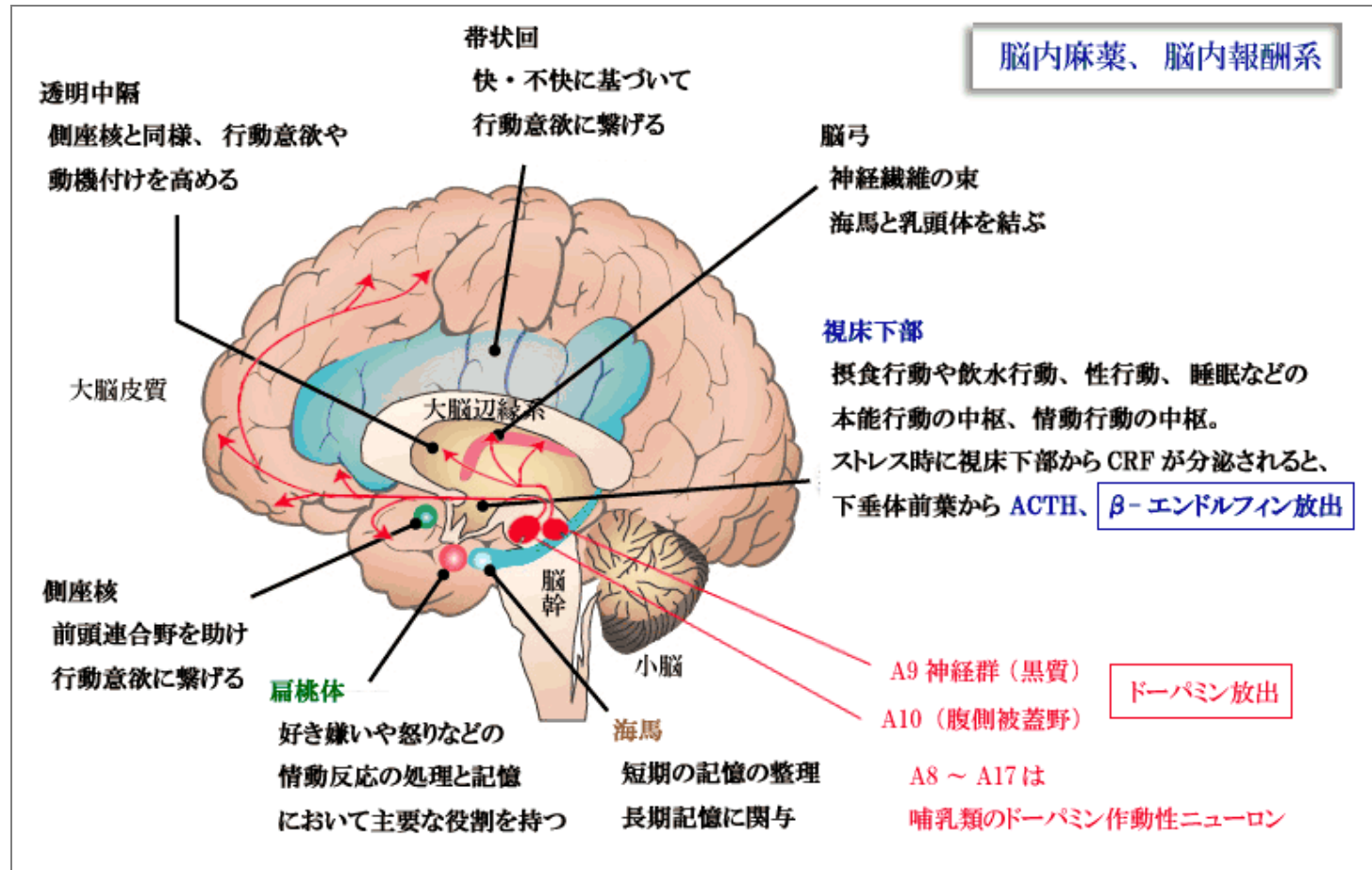
潮の流れ

□直近価格と脳科学

○問題設定

「人の心理が値動きを作る＝脳は人の心理・行動を統制する」

脳の生理作用に精通することはトレーディングスキルを高める上で重要である。



□直近価格と脳科学①

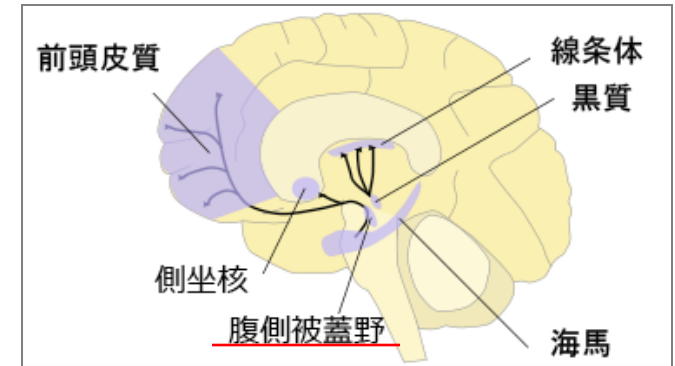
○なぜ直近価格(新しい)が重要視(共通認識が高い)されるのか

＜脳が新しい情報を処理する仕組み＞

中脳内の領域 → 黒質／腹側被蓋野(SN/VTA)

↓ 密接な関係

海馬・扁桃体・・・学習・記憶のコア



①黒質／腹側被蓋野(SN/VTA)

これまでに経験したことのない新しい情報に遭遇した時に活性化
例)画期的な新商品、見たこともないほど美しい異性

・ある実験結果

SN/VTAが活性化したのは「相対的な新しさ」、「絶対的な新しさ」のみ反応した。

②海馬・扁桃体

- ・海馬・・・新たに受けた刺激を記憶と照合
- ・扁桃体・・・感情刺激に反応し、関連する長期記憶を補強

∴馴染み深いものに対し、人の注意を引きつけるのは、「相対的な新しさ」と「絶対的な新しさ」だけ

□直近価格と脳科学②

○直近価格と報酬系

＜報酬系と脳の作用＞

慣れた刺激	新しい刺激
報酬に結びつくものではないと学習済み	黒質／腹側被蓋野(SN/VTA)が活性化
報酬の可能性は消える	ドーパミン濃度が上昇し報酬の可能性を期待
行動を起こさない	行動を起こす
需給バランスは均衡	緊急性 が生じる可能性が高い

ドーパミン・・・報酬を探し出すための意欲と密接に関連

生理作用	トレーディングでの作用
脳が新しいものに反応	直近価格に反応
ドーパミンを放出	ドーパミンを放出
報酬を探して動き回りたくなる (報酬を得られる可能性があると考える)	重要な価格として作用することを期待し価格を取得したくなる (利益を得られると考える)
早く欲しい 需給バランスの傾きが発生	価格取得に 緊急性 が生じる

□直近価格とストップ刈り

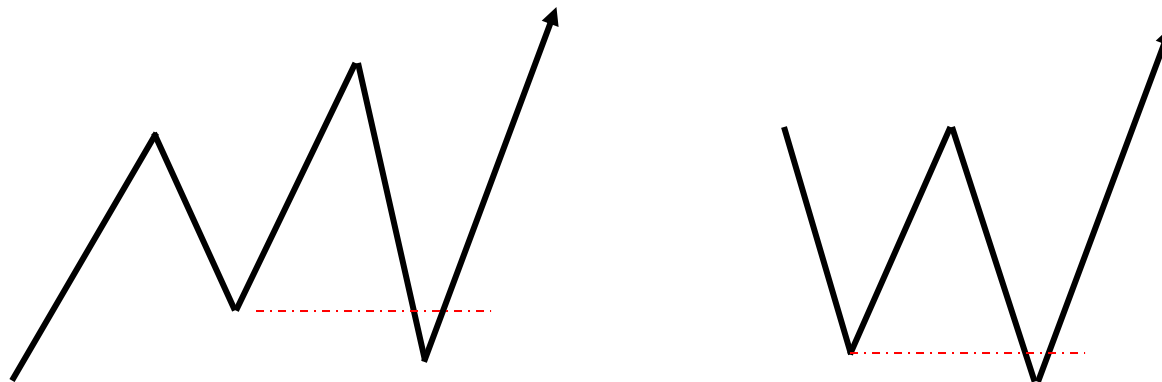
○相場での実務的解釈

鮮度が落ちた過去の重要な価格よりも、直近(新しい)の重要になるかもしれない価格に脳が反応する

→ この生理作用により直近価格が機能する

○ストップ刈りとの調和

この「直近価格が機能する生理作用」と「ストップ刈りの構造」（後述）を理解していることによって、チャート上における教科書通りにはならない現実に対して最適解を導き出すことができる



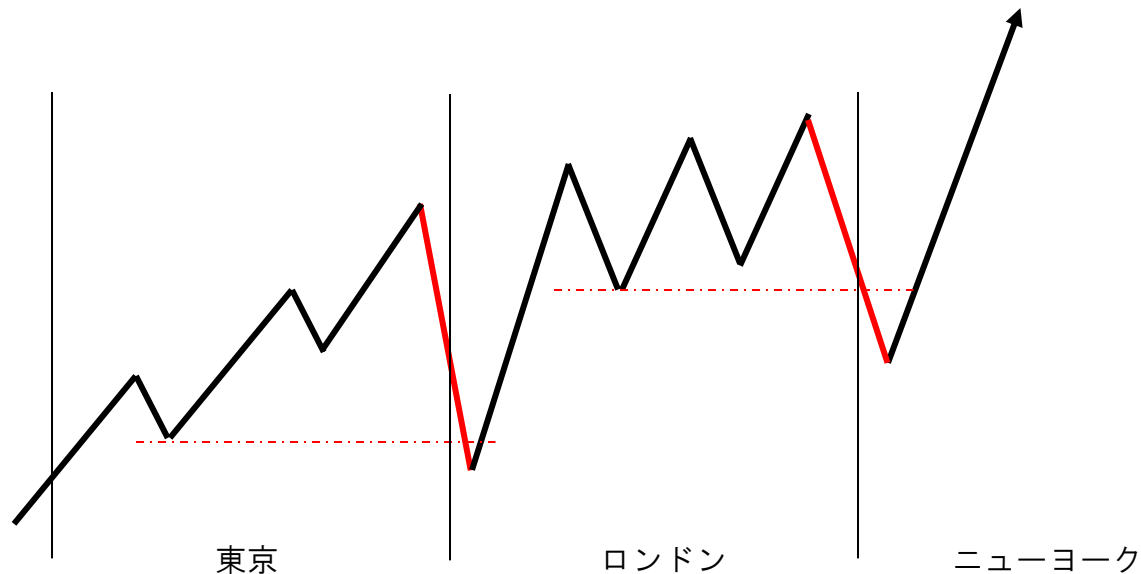
□ストップ刈り

○なぜストップ刈りが起こるのか

- ・相場は全員が儲かるようにはできていない
- ・相場は資金の奪い合い
- ・弱者は排除される（燃料理論）

○相場での実践

- ・ストップ刈りが起こるポイントまで待つ
- ・ストップ刈りが起こる時間帯を意識する（市場時間の切り替り：東京→ロンドン→ニューヨーク）
- ・ストップを刈る側になる



□パターン認識の仮説①

○人（相場参加者）の意思決定時の流れ

今まで社会に存在しなかった新しい発明等を除き、人の意思決定は
「過去の類似するものを参考にする。」＝「模倣する。」

○模倣性

ミラーニューロンによる模倣性は、人が社会において一定の集団生活を送るために機能している。

例）赤ちゃんが成長とともに物事を覚える

→ 模倣する相手に依存した成長を辿りやすい

皆と同じように振る舞う（安心する）

→ 皆と同じに振る舞えない存在や出来事に違和感を覚える

○相場において、なぜパターン認識が機能するのか

相場参加者の多くは共通のルールであるダウ理論を値動きの前提としており、そこにミラーニューロンという脳の神経細胞による認知機構の作用が加わることで、相場参加者1人1人が自覚無自覚に関わらず値動きを形式的に表現したダウ理論上のチャートパターンを模倣する値動きが形成されていく。

∴ 何らかの事象を視覚的に認識した時、ミラーニューロンの作用により

「目につきやすい何か（無自覚的に基準としたくなるような目立つもの）」
を判断の基準に模倣する行動は構造的に必然と考える。

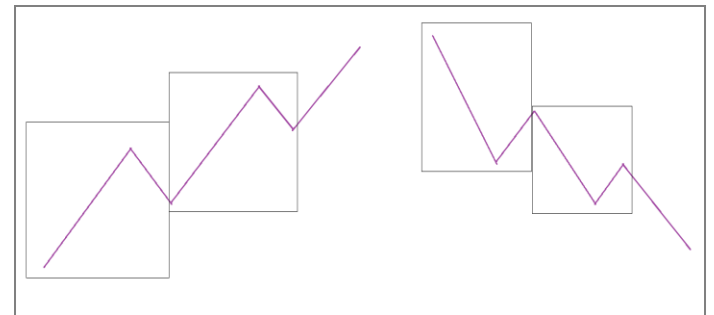
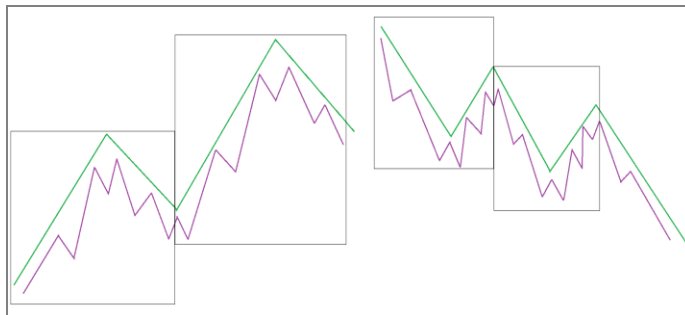
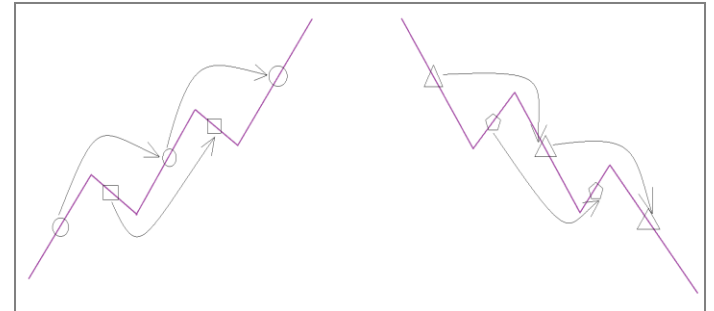
□パターン認識の仮説②

○ミラーニューロンによる模倣性という仮説に基づき、
チャート分析における波の認識について、次の視点を重要視する。

＜相場参加者が自覚的・無自覚的に認識している視点＞

- ①常に基準となる高値・安値とそれを結んだスイングを探している。
又は、無自覚的にそれを認識している。
- ②直近の同サイズ・同方向のスイング
- ③同じような価格帯・時間帯での値動き

∴模倣すべきものが視覚的に明瞭な場合、
共通認識性の高さが生じ、大きな値動きへと派生する。

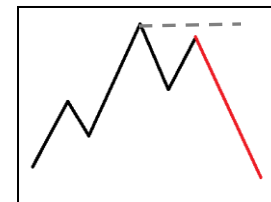
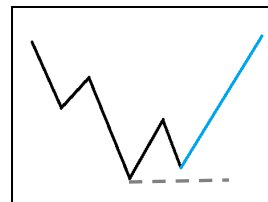


□なぜ価格は切り上がる・下がるのか

○構造的背景

何らかの理由により機能した価格がアンカーとして機能する。
次にその価格へアプローチがあった場合、「少しでも早くその価格で取得したい」という緊急性が生じる。

∴アンカーとなった価格に到達することなく値動きが発生し、
切り上げ、下げという形となる。



○心理的背景

外部情報等により、視覚的パターンとしてのみ認知している参加者が、アンカーとなった価格に対し、
切り上がる・下がることを期待し売買をする。

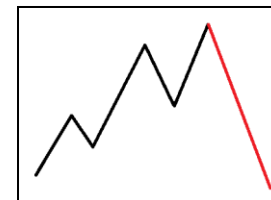
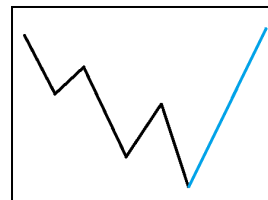
※トレンド時等は、その傾向がより強くなり切り上がる・下がるという結果を生むと考える

○なぜ価格の突き抜けが起こるのか

＜要因となる参加者の行動＞

- ・それまでの流れに場当たりの飛び乗る
- ・下位足でのトレンド等を単一フレームで追いかける
- ・ブレイクアウト狙い

- ・他者から利益を奪い取るストップ刈りは相場の本質
- ・突き抜けた価格への値頃感で取得するもの
- ・コントラリアン
- ・テクニカル背景から取得するもの



→ 総体的背景として、**こちらの方**が「量として優位」なため合意形成され順行する。

※「量として優位」とは、、、

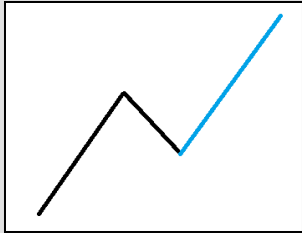
量的に優位な参加者

→ 資金力がある

→ 技術を持ったトレーダー

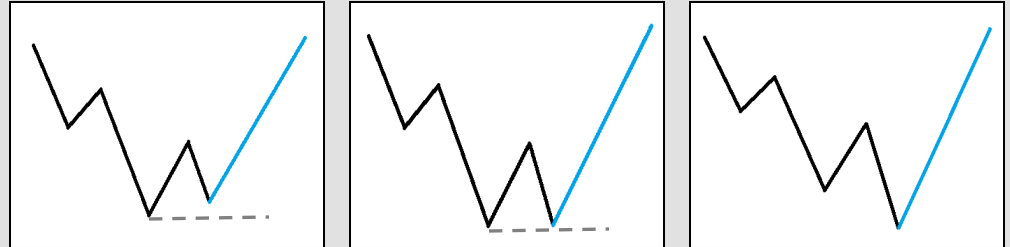
□認識パターンの分類 -Set Up-

パターン①



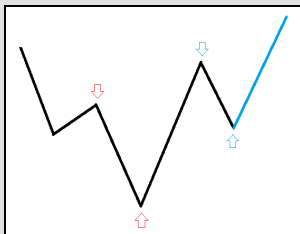
トレンドフォロー

パターン③



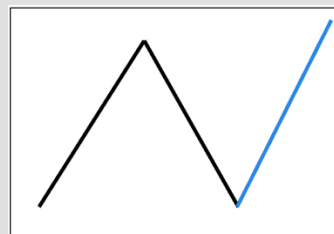
ダブル（トリプル）ボトム

パターン②



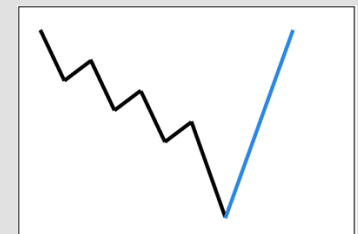
トレンド転換

パターン④



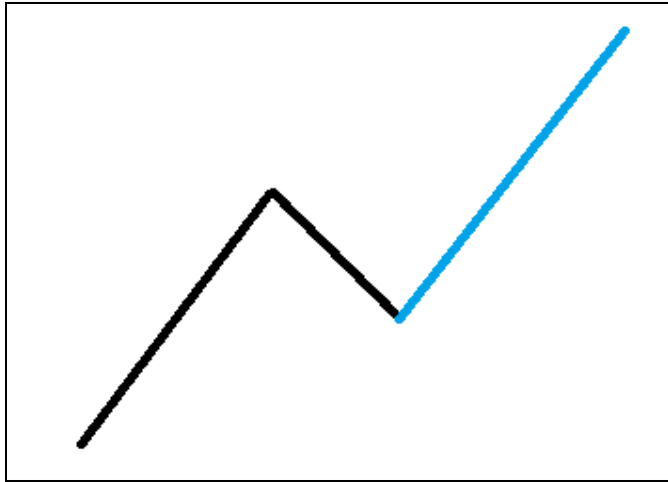
サイクルクローズ

パターン⑤



トレンドの終焉

□パターン①

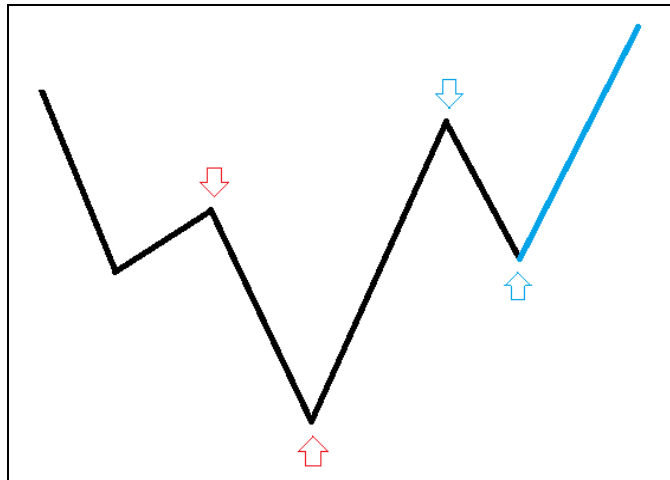


トレンドフォロー
押し目買い

- ・ D1、H4スケールの波を捉えることができる
できれば大きく資金を増やすことができる
- ・ H1、M30スケールでのトレンドフォローは、
その発生頻度に対し勝率は下がることを理解すること

Set Up			Bolinger Band
Macro	Middle	Micro	BB-2σ
○	×	×	○

□パターン②



トレンド転換

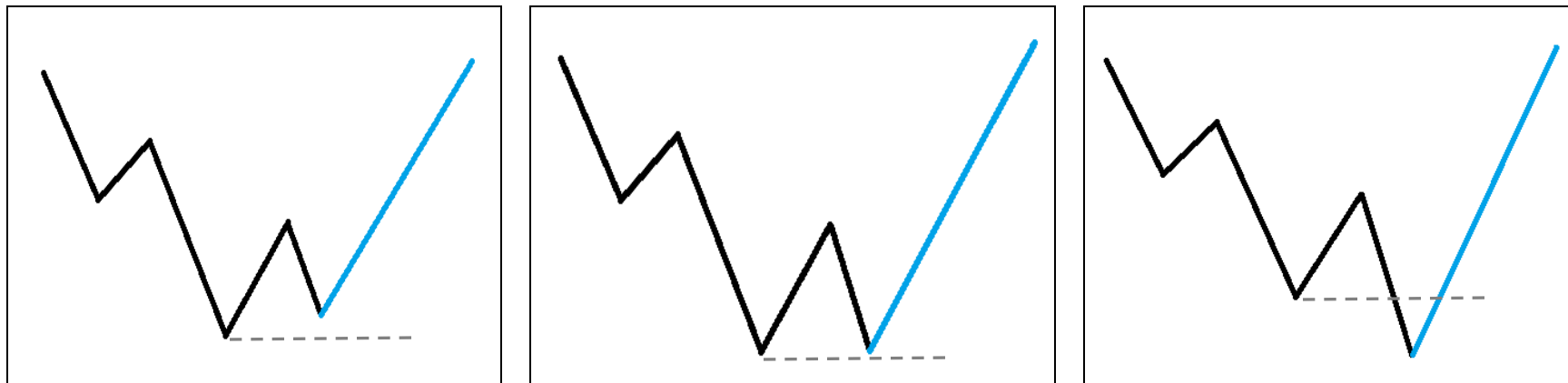
最強の鉄板パターン
これだけでも十分利殖可能

レジサポ転換、複数価格突破、時間帯、
パターンタイム、ストップ刈りなど根拠が
多いほどその確度は高くなり、ポジション
サイズに大きな影響を与える

またMicro Set Upとしての確度も高く
エントリー戦略を立てやすい

Set Up			Bolinger Band
Macro	Middle	Micro	BB-2σ
○	○	○	○

□パターン③ー1~3



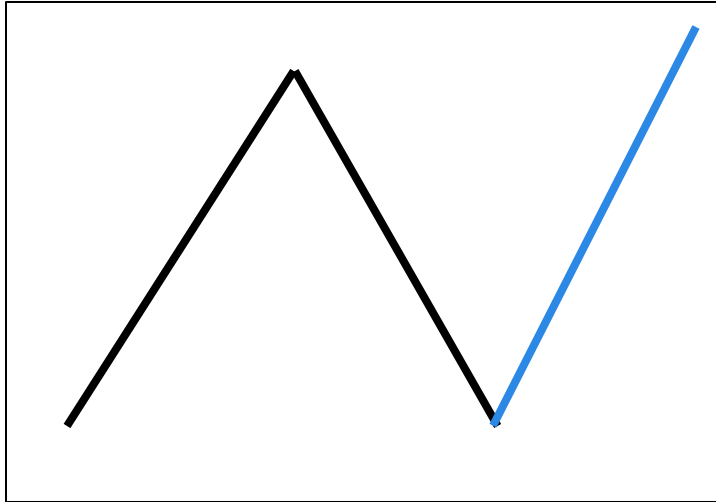
Set Up			Bolinger Band
Macro	Middle	Micro	BB-2σ
○	○	○	○

ダブルボトム

左側に基準となる価格があるため、トレンドの終焉と比較し難易度が低く習得しやすい

※Bottomの形状がDouble、Trippleでも同様

□パターン④

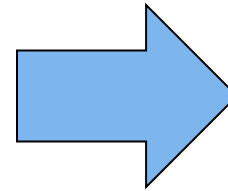


サイクルクローズ Aのボトム

Set Up			Bolinger Band
Macro	Middle	Micro	BB-2σ
○	○	○	○

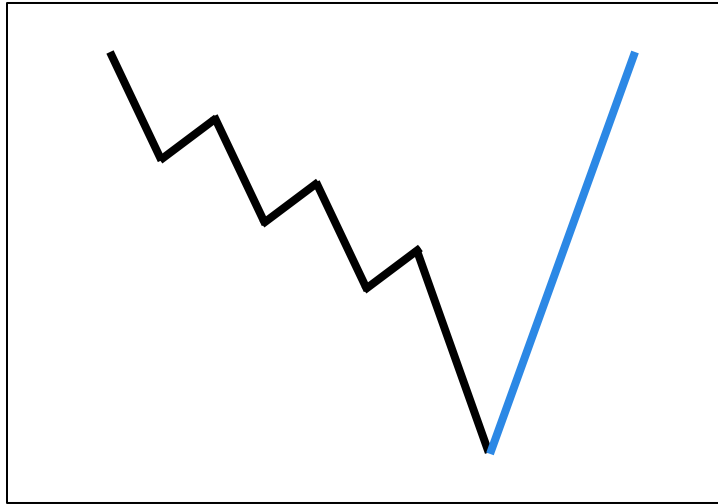
《モメンタムが発生する理由》

- ・ 新規買い
- ・ 買い増し
- ・ 買い直し
- ・ 売りの利確＝反対売買の買い
- ・ SPL割れを狙ったブレイク売りの損切り＝反対売買の買い



これらが一同に発生し、
売りと買いの2重の圧力が
生じるため、
相応のモメンタムとなる

□パターン⑤



トレンドの終焉

リスクリワードを追究していった自身の答え

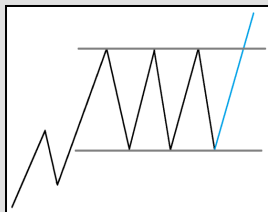
Set Up			Bolinger Band
Macro	Middle	Micro	BB-2σ
○	○	×	○

《トレンドは必ず終焉する》

- ・ 最後の下落は最も大きく激しく起こる
- ・ 大衆の相場観が下落で合意形成されている
- ・ 大きな値動きの初動でエントリーする
 - しかしトレンドがいつ終焉するのかは誰にも分からない
 - 資金管理、ポジション操作などの立ち回りによって戦略をコーディネートする
 - この労力に見合うリターンが望める場面でのみ動く

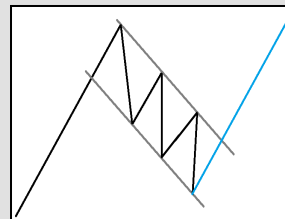
□認識パターンの分類 - 保合い-

パターン①



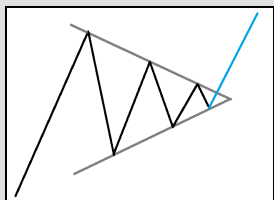
Box/Range

パターン②

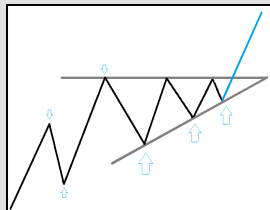


Flag

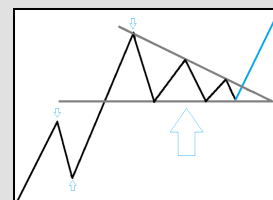
パターン③



Triangle/Penant



Ascending Triangle

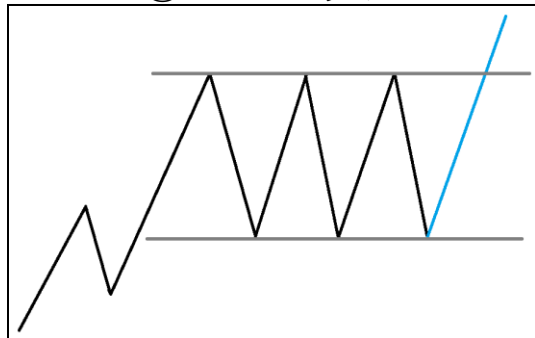


Rise Triangle

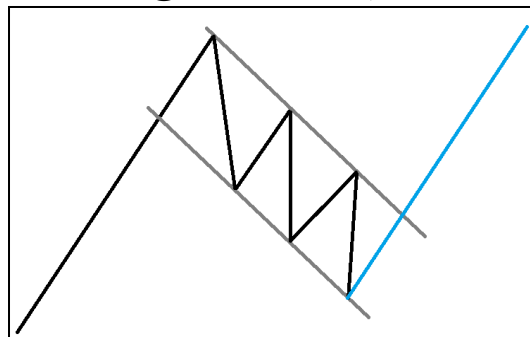
これらの保合いパターンは下位足では頻発するが勝率は圧倒的に低い
最低でもD1/H4以上の時間足で採用すること

□保合いパターン①ー1～5

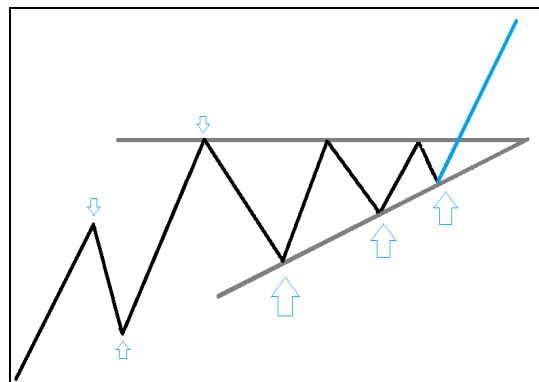
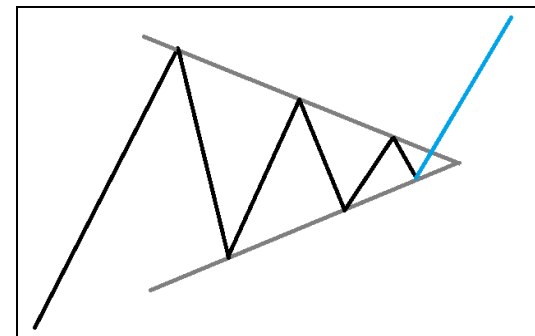
①ブルボックス



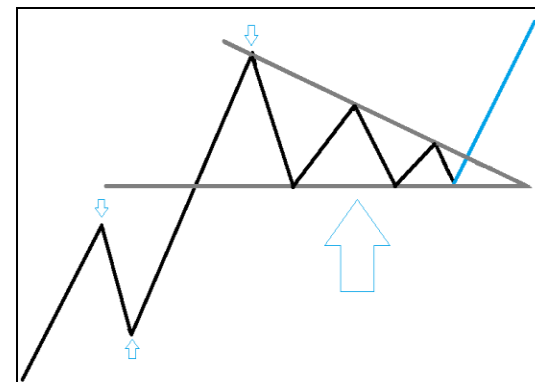
②ブルフラッグ



③シンメトリカルトライアングル
(ペナント)



Set Up			Bolinger Band
Macro	Middle	Micro	BB-2σ
○	×	×	○

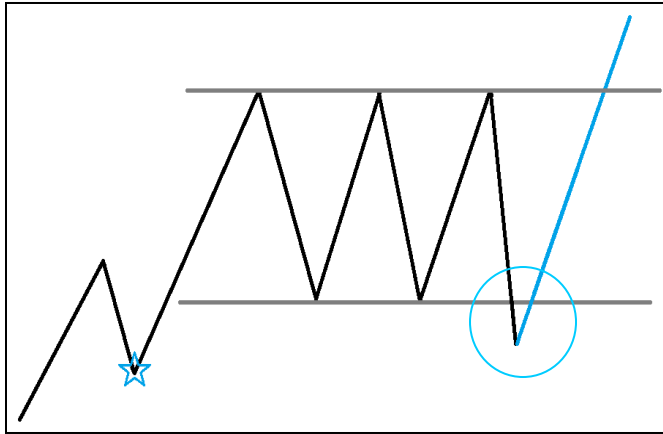


④アセンディングトライアングル

⑤上昇トライアングル

最低でもD1/H4以上の時間足で採用し、ラインに3点以上が接することを確認できて初めてセットアップとして採用すること

□保合いパターン① Point



○ストップ刈り

順行失敗と見せかけ反対売買を誘ってから、その損切り注文を巻き込み順行が再開する。
基準境界線をブレイクしてからのミクロの形成パターンに注目する。

○スイングチャート分析

基準（模倣されていそう）となるスイングを探し、押し、戻りの値幅を推定する。

○波形スケール分析

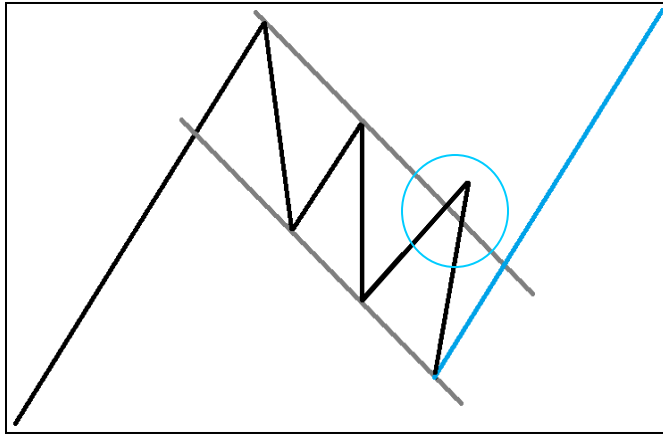
模倣されていそうな同様の保合いからプライスアクションが発生するまでのタイミングを分析する。

横軸：所要時間 縦軸：値幅

○殿(しんがり)価格

ボックス系保合いの場合、☆部分のようなストップ刈りが発生しても守られる価格が存在するため、
S/L注文や戦略形成時の背負うべき価格として緻密に見極める。

□保合いパターン② Point

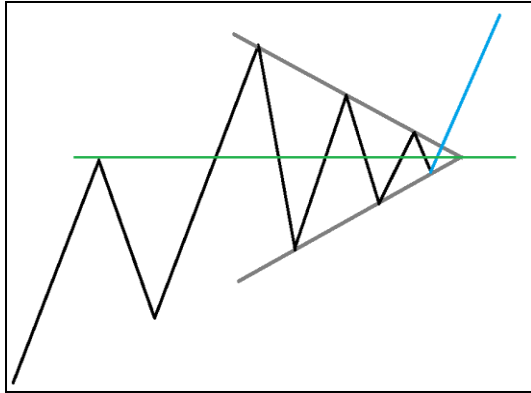


- 基準境界線を僅かにブレイク
プライスアクション発生タイミングの前兆
- スイングチャート分析
基準（模倣されていそう）となるスイングを探し、押し、戻りの値幅を推定する。
- ミクロのタイミングシグナル
ミクロでのトレンド転換や適合パターンの出現を見極める。

∴これらのポイントをしっかりと分析統合せずにタイミングシグナルのみで仕掛けると、
緩慢な値動きで損切りを連発するため注意する。

□保合いパターン③ Point

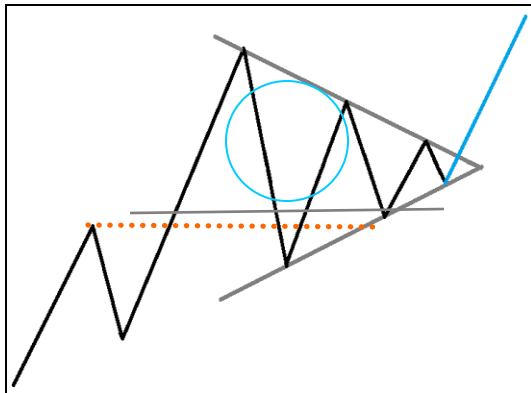
—保合いパターンに共通する優位性—



○直近価格との調和

直近価格(高値、安値)がShort Lineとして機能

→ チャートパターンの強度が強い



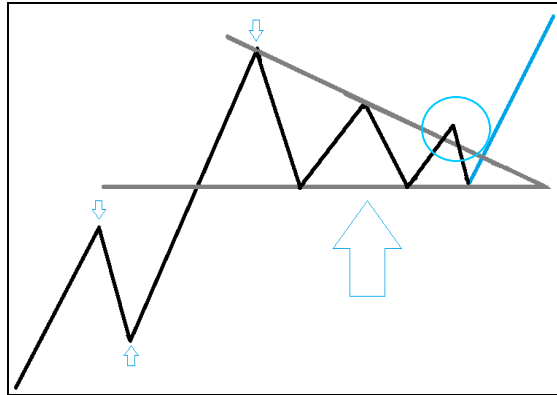
○直近価格ラインとトライアングルとの位置関係

直近価格ラインがトライアングルの垂線に対し、
順行方向への面積割合が大きい(○部分)

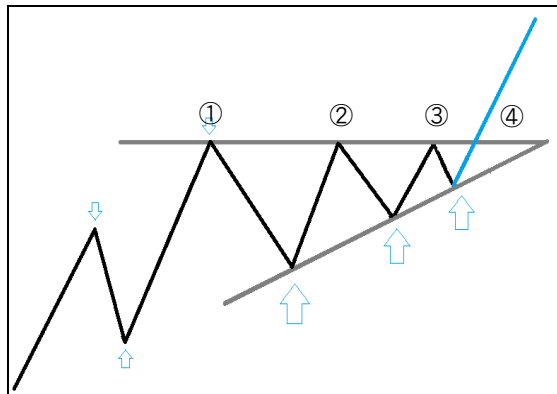
→ チャートパターンの強度が強い

□保合いパターン④⑤ Point

—保合いパターンに共通する優位性—



- 基準境界線を僅かにブレイク
プライスアクション発生タイミングの前兆



- 4回目のアプローチ
基準境界線に4回目のアプローチでブレイクしやすい傾向
→ それまでの価格推移にも着目する。

- etc ○終値ベースでの価格更新
高値(安値)が終値ベースで更新
→ トレンドの順行
※ダウ理論は終値のみ考慮する

□ハンマーとは何なのか

○本質と形式

マルチフラクタルな構造において、

「ダウ理論の転換が最小単位で成立」したことを形式的に表現したものである。

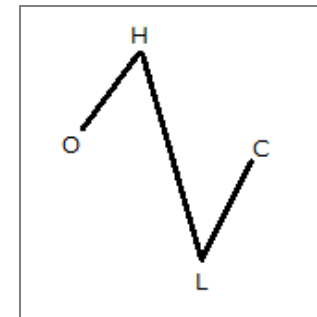
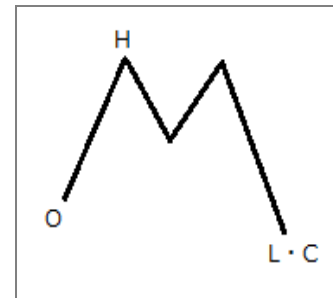
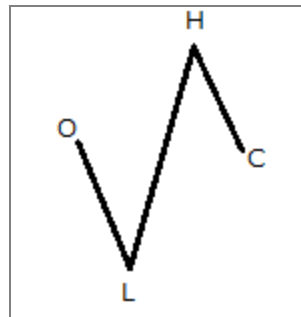
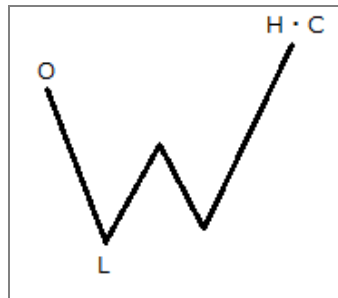
よって、時間の制限（ローソク足の時間の区切り）によって、形式的にハンマーとならなくても、

ダウ理論の転換パターンやパターン認識の適合が確認できる場合

は、有効なシグナルと判断することができる。

※現実的な最小単位であるM1ローソク足の形成過程にもこの考えは当てはまる。

代表的・象徴的なパターン



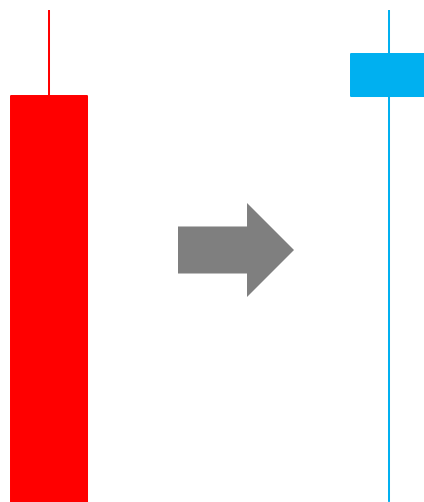
□陰線坊主でのエントリー

○リスクリワードを極限まで高める

いかに精度が高いエントリータイミングであったとしても、スプレッドによるズレは受け入れざるを得ない。

しかし、そのズレすら妥協しない姿勢が陰線坊主でのエントリーに行き着く。

実際のエントリーは、慌てる必要はなく下位足での2番底などを丁寧に拾っていけばいい。



上位足



内包される下位足での値動き

□戦略の区分

トレード戦略の根幹は、

「**中長期トレンドフォロー**」か「**短期モメンタムの初動を抜き取る**」しかない。

※詳細は、コンテンツ「なぜシステムトレードではなく裁量トレードを採用するのか」を参照。

①短期モメンタム

当日値幅内のボラティリティによる値動きを抜き取る

○時間対効果に重きを置き、短期モメンタムの初動を捉える

H1、M30スケールの1スイングを捉える

1日に数回は発生するが、主戦場とする時間帯での1波に狙いを絞る

Point1：マルチタイムフレームの視点から「一旦は反発するポイント」で手堅く利益確定する
時間対効果を意識する

Point2：マルチタイムフレームの視点から「一旦は反発することが想定されるポイント」は、
程度の差こそあれほぼ間違いなく反発するため躊躇なく利確する

□戦略の区分

②複合優位性セットアップ

「スキャルのストップ幅でスイング規模の波を捉える」

○大きな値動きが発生するまでに保有時間が長くなったとしても、
それに見合う大きな波を捉える。

D1、H4スケールのスイングを捉える
月に2～3回発生

Point1：いかに利益を伸ばすことを我慢できるか

Point2：安易なピラミッティングによって押し目形成でポジションが不利にならないようにする

※いずれも「どのタイムフレームのどの大きさのスイングを捉えるのか」
をしっかりと自覚すること重要

→ その値動きは、トレンドによるものなのか（どの時間足で発生しているトレンドか）、
値幅消化のためのボラティリティなのかを見極める

□分析視点・思考システム

実践

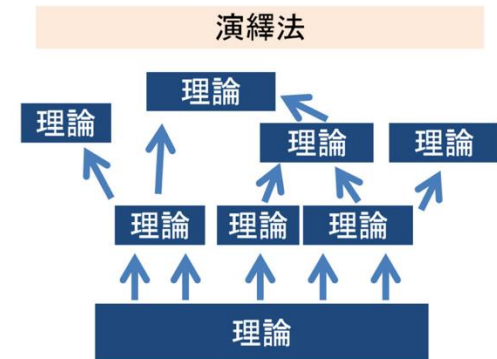
○演繹的推論

- ・ 一般的な規則（前提）から具体的な事実を導き、その一般的な規則が妥当であることを示す過程。

※前提＝検証で確認した理論・結果

○前向き推論

- ・ 与えられた条件から結果を推論する方法。
- ・ 演繹的推論を用いて、前提となる推論規則を組み合わせて、新しい推論規則や事実を導き出す。
- ・ 事実から特定の仮説を結論として導き出す。
 - 最初に意味のある情報を探し、収集し、そこから全体の結論を推理していく。
- ・ 事実の前後関係を推理する。
 - 条件「 $x + y$ 」では、 $A \rightarrow B$ となるが、条件が変わればCにもなりうる。



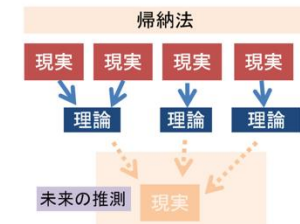
検証

●帰納的推論

- ・ 多くの具体的な事例から一般的な法則（結論）を導く方法。
- ・ 一般に具体的な事例が多くあれば、推論結果の信頼性が向上する。

●後向き推論

- ・ 与えられた目標（仮定）の正当性を推論する方法。
- ・ 帰納的推論を用いて、導かれた多くの事実により推論規則の前提条件が正しいことを検証する。



□意思決定のフローチャート

○判断フロー

手順① 上位足：Macro Set Up (Middle Set Up) パターン認識 + Technical Signal

手順② 下位足：Micro Set Up パターン認識 + Technical Signal

※Point1 総体的価格配置が最も重要

※Point2 主導モメンタムの把握（どのタイムスケールの波を狙っているのかを明確にする）

※Point3 重要要素の優先順位 ①波 → ②価格 → ③ライン → ④インディケータ

○時間枠の区分

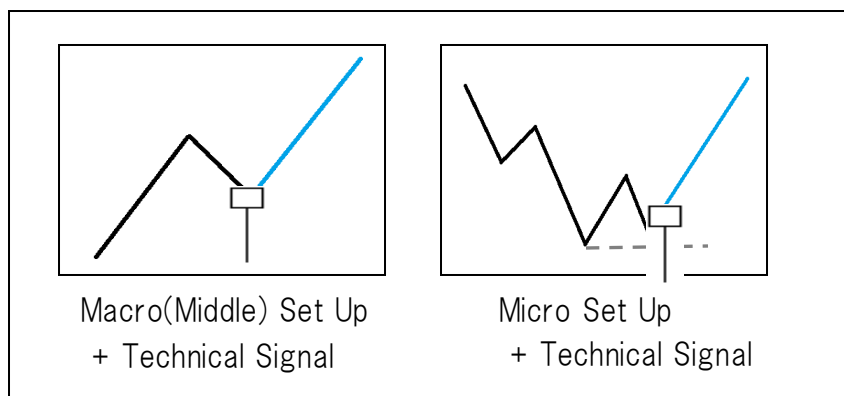
Macro : MN、W1、D1、H4



Middle : H1、M30



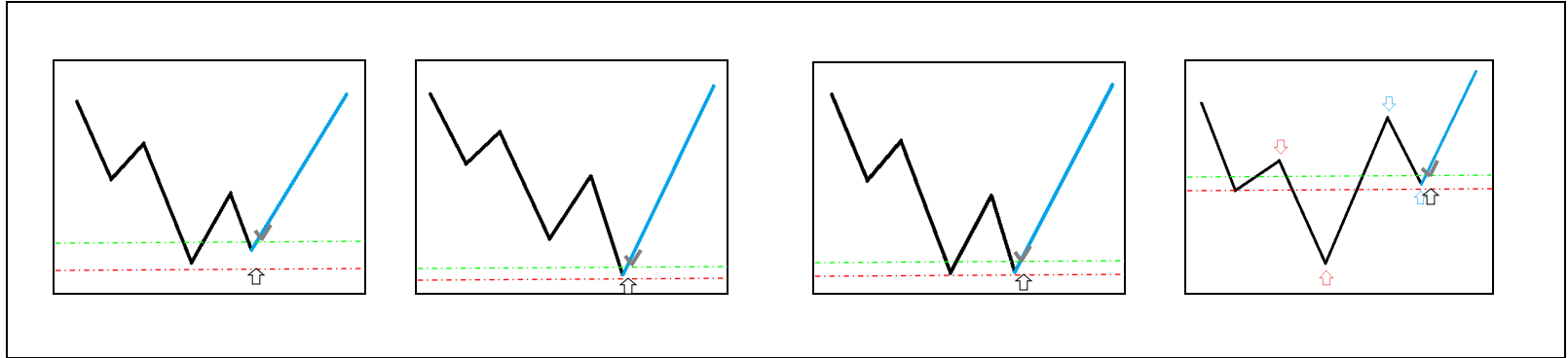
Micro : M15、M5



○なぜこのルールが機能するのか

1. マルチタイムフレーム分析と丁寧な分析自体の優位性
2. 相場参加者の大多数はここまで緻密に見ていないし待てないため、この手法が長期的に機能
3. 構造的、本質的な「波」、「価格」に重点を置いているため普遍的な価値を持つ

□S/Lルール



<S/L設定の考え方>

エントリータイミングやS/L設定は下位足まで落とし込んでいくものの、撤退の判断はあくまで執行時間足のセットアップ（根拠）が崩れることであり、それが担保されている限りは安易にS/Lを引き上げたり建値に移動してはいけない。

<S/L設定フロー>

1. 上位足でセットアップの確度を判断
2. Micro Set Up & Technical Signalの強度を判断
3. エントリーが単発、分割によってS/L 位置を微調整

※ロットを上げることを目的にS/L位置をタイトにし過ぎると、無駄なS/Lヒットの損失が生じトータルコストがかさむと同時に精神衛生上、悪い影響を及ぼすため注意。

<S/L管理>

- ・ 執行時間足の利確目標にまだ到達していないものの、下位足では一旦の反発ポイントに到達した場合には、S/Lを建値に移動し原資を守る。
 - 分割エントリーの場合、一部を利確しコストを回収するというのも善作。

□利確ルール

○重要な考え方

「伸ばすべき時に伸ばす」、「攻めるべき時に攻める」

ために**手堅く利確し利益を積み重ね、心理的な余裕を生み出すことが非常に重要**

①短期モメンタム＝当日値幅内のボラティリティ

- ・ H1、M30スケールの1 スイング

「マルチタイムフレームの視点から一旦は反発するポイントで手堅く利益確定する。」

- ・ 時間対効果を意識し、原則、指値決済を活用 = リワード3のポイントに指値設定
- ・ 結果的に「伸び切った先端であろう」ポイントで決済
- ・ テクニカルバリア
上位足ライン、BB+2 σ 、ラウンドナンバー

②複合優位性セットアップ

- ・ 戦略自体が中長期トレンドフォロー戦略であるため、D1の前回高値などがターゲット
- ・ D1、H4スケールのスイング
「D1、H4での反転シグナルが確認できるまで粘り強く保有し
伸び切った先端であろうポイントで決済」

※いずれも「どのタイムフレームのどの大きさのスイングを捉えるのか」

をしっかりと自覚することが重要

□ライン設定

○基本的な考え方

価格重視のライン設定

→ 前回足の終値or直近足の始値にラインを修正する。

※価格帯としてゾーンで機能しそうな場合は、時間経過とともに緻密にフィッティングを調整する。

○設定位置

・ 水平線 . . . ローソク足実体

→ 縦軸：価格で仕切るライン

・ 斜めの線 (W1以上で設定) . . . ひげの先端

→ 横軸：時間で仕切るライン

○複合根拠

ライン設定の際、水平線と斜めの線が重合するポイント等の複合根拠となるポイントがないか緻密に探る。

○斜めのラインと接点

原則、3点以上接点を有する場合にライン設定する。

ただし、そこにある秩序を想定し引いてみるのが有効な場合もある（思い込み注意）。

○スイングスケール

ライン設定にあたり、場の主導となっているスイングスケールを把握し、スイングスケールにフィットするようなライン設定を心がける。

□インジケータ&オシレータの考え方

○メインの分析視点
「ダウ理論」

○インジケータ&オシレータを用いる基本的な考え方
相場参加者の多くがBollinger.Band.、MAを使用している。
つまり、インジケータ、オシレータ自体は価格動向の後付けであったとしても、
多くの相場参加者がそれを見ている = モメンタムの発生という視点の根拠となる。

○Bollinger.Band.
・ ボラティリティの把握、チャブツキの回避
・ テレンド、レンジの見極め
・ スクイーズを認識し、大きな値動き発生時期の見極め
・ どのタイムフレームの $\pm 2\sigma$ が主導か(意識されているか)
・ MTF・MAによるテンド傾向の把握

○EMA
・ テレンドの方向性の把握
・ パーフェクトオーダーによるテンド終焉の予測
・ MN、W1、D1では180&200EMAを反発の根拠とする
・ 収束によって大きな値動き発生時期の見極め

□資金管理

○堅牢な技術を身につける

資金量があるトレードと比較し、**少額からの利殖は圧倒的に難しい**

- イーロンマスクが貸切でディズニーランドへ行くことと、
小学生がお小遣いを貯めてそこへ行くことほどの違いがある
- 磨き抜かれた堅牢な技術があれば、少額からの利殖は再現性の高いツールとなる

○少額からの利殖の再現性を体感すること

まずは1万円を10万円にすることを体感し、それを繰り返すことによってその営みの再現性を確保できれば、自身の利殖のリズムを掴むことができる

○リスク制限の徹底

どれだけ資金が増えても、リスク分以外は絶対に証券会社口座に入金しないこと
大きく負ける時とは、決まって大きく勝った後だ。

- 例) 証券会社口座＋入金用ストック口座＋本口座のように、入金管理自体を何層にも分けることで感情的な入金リスクを排除することができる

□ロット算出の考え方

基本的な考え方については、次のコンテンツを参照

- ・「少額から利殖する意義と資金管理」
- ・「少額から利殖する流れとポイント」
- ・「戦略的アクションプラン」

○重要な基本理念

RRR3以上が見込める場面では、「機械的」・「投機的」に仕掛ける

○許容リスク

基本的には、証券会社口座に入金している資金の100%をリスクにとるフルレバ戦略

※個人の裁量によって決定

○メンタルマネジメント

順調に資金が増えている時こそ兎の緒を締め直し、ロットを安易に増やすことなく、むしろ一旦はサイズを落とすくらいの方がメンタルも口座残高も安定する

□少額からの利殖の考え方

○10万円を10等分にし1万円→10万円のチャンス10回に設定する



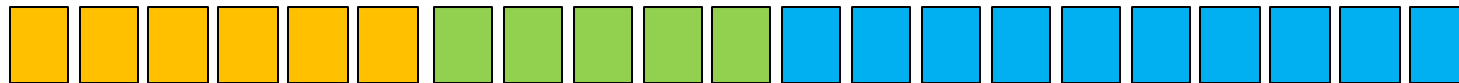
4連敗：-4万円



1勝：10万円 計16万円



5連敗：-5万円 計11万円



※説明を分かりやすくするため、1勝：10万円を表示

1勝：10万円 計21万円

堅牢な技術が大前提であるが上記のように連敗数に関わらず、1万円を10万円にすることができれば、資金は確実に増えていくことをまずは理解すること

段階的な利殖の具体的な方法については、コンテンツ「少額から利殖する流れとポイント」等を参照

□分析ルール

1. 主導スイングを認識
2. MN、W1の大局観が最も重要
3. D1、H4のセットアップが高勝率
4. ダウ理論を正しく認識
5. どの価格を試しにいているのかを認識
6. 背負っているラインの認識
7. 確認セットアップ

Macro Set Up + ハンマー

→ Middle Set Up + ハンマー

→ Micro Set Up + ハンマー



□ 休息・撤退ルール

- メンタルマネージメントができなくなった時点で相場から離れる
- 何日空こうがメンタルがリセットされるまでは相場から離れる
- 今まででもそうだったようにこれからも相場は逃げない
- 複雑なことは一切必要なくPCの電源を切るだけでいい
- ポジション保有時以外スマホアプリは百害あって一利なし
- 大きく勝った後は相場から離れ謙虚さを取り戻す

□規律

1. シンプルさを追求しろ
2. フォームを常に意識しろ
3. その時まで「待て」とにかく「待て」
4. 完璧を目指しても、完璧にこだわるな
5. 狙っているスイングを明確にしろ
6. 利確目標を明確にしろ
7. 常に自分のメンタルを監視しろ
8. 建値決済に移行したらチャートから離れろ
9. 予測ではなく事実を見極めろ
10. 売買ルールを信じ、機械的にトレードしろ



□おわりに

相場の世界で結果を出すためには、「自分を信じ切る事」 これ以外に方法はない。

誰かが自分を負かすわけでもなく、

誰かが勝たせてくれるわけでもない。

すべての責任は自分にあるということを細胞レベルまで自覚した時、

それは突然に、しかし必然の結果として自分の前に現れる。

あをうし